



日御碕地区まち歩き環境向上基本計画

島根県出雲市

目次

1. 策定の背景	1
2. 日御碕地区まち歩き環境向上基本計画について	2
3. 日御碕地区の特徴	5
(1) 日御碕地区の観光資源	5
(2) 観光入込客数（日御碕）	7
(3) 外国人観光客数（出雲市全体）	7
4. 日御碕エリアの課題・問題点	8
5. 課題解決に向けた具体的コンセプトと目標値	15
6. 課題解決に向けた取組内容	16
(1) 民間店舗や宿泊施設の景観形成	16
(2) 地区内の景観向上・環境向上	18
(3) インバウンド対策のための施設整備等	18
(4) 観光地としての魅力向上策の実施	19

1. 策定の背景

～はじめに～

島根県出雲市大社町日御碕地区を中心とするエリアは、大山隠岐国立公園の島根半島西部エリアの一部であり、同国立公園が、平成 28 年に環境省の『国立公園満喫プロジェクト』を先行的・集中的に実施する国立公園として選定されたことにより、以降、積極的に広く国内外からの誘客に取り組んでいる。

加えて、同地区は、平成 29 年 4 月に、文化庁の認定する日本遺産認定『日が沈む聖地出雲』の中核エリアとなり、同年 12 月には、同地区を含む島根半島が、島根半島宍道湖中海エリアとした『日本ジオパーク』に認定されたことも追い風となり、これを一大契機と捉え、地元や商工会、行政などが一体となり、情報発信と受け地整備を両輪とした各事業を展開している。

～出雲市の観光課題～

出雲市の観光入込客数は、平成 25 年の出雲大社の大遷宮をピークに減少傾向にあるものの、現在でも島根県内最多の約 1 2 0 0 万人である。

しかしながら、宿泊者数（平成 3 0 年）は近年増加傾向にはあるものの、約 7 4. 7 万人しかなく、入込客数のわずか約 6 % しかない。

隣接する松江市の宿泊者 2 0 2. 9 万人に対しても、約 3 7 % にとどまっており、宿泊者数が少ないことが最も大きなボトルネックとなっている。

また、外国人宿泊客数については、島根県の外国人宿泊客数は約 9 万人と全国最下位であり、この状況が長らく続いている。このうち、出雲市での外国人宿泊者数は、増加傾向にはあるものの約 8 千人と県全体の 1 0 % にも満たない。隣接する松江市の外国人宿泊客 7. 5 万人（県全体の 8 3 %）と比較しても大きな開きがある。

出雲市に訪れる観光客の多くは、国内では知名度のある出雲大社周辺には集中して訪れるが、市内のその他に点在する観光資源へ周遊しないため、滞在時間が短く、宿泊を伴わない「通過型の観光」となっている。

～課題克服のために～

「通過型の観光」という課題を克服するためには、効果的な観光誘客に向け、出雲大社以外の観光資源を磨き上げ、滞在型のエリアを確立することが必要である。このことから、出雲大社から距離的にも近く、世界にも誇れる観光スポットを有する日御碕エリアへの周遊を足掛かりとすることが最も効果的・現実的であると考えられる。

多くの観光資源を有する日御碕エリアの魅力を高め、当エリアへの誘客を促すことが重要なポイントであるとする。

2. 日御碕地区まち歩き環境向上基本計画について

1) 策定の趣旨

前述の背景を踏まえ、すでに訪れている日本国内の観光客や、今後増加していく海外からの観光客が、当該エリアの自然景観・歴史を落ち着いた雰囲気の中で楽しむことができ、何度も訪れたくなるような空間を、地元住民、事業者、行政が一体となって整備に取り組むために、『日御碕地区まち歩き環境向上基本計画』を策定する。

2) 関連計画

出雲市や各団体で策定されている下記計画の方針や目的に沿った計画を策定する。

出雲市総合振興計画

『新たな国づくり計画 出雲未来図』(H24)

出雲市において、平成24年度に策定した総合振興計画『新たな国づくり計画 出雲未来図』の戦略プロジェクトとして掲げる交流人口1200万人プロジェクト(※1)には、「出雲大社「平成の大遷宮」後の観光対策」や、『スポーツ・レジャー空間の活用』として、出雲大社を核とし、日御碕をはじめ市全体の観光スポットを周遊する取り組みを展開するとともに、美しく豊かな自然環境を活かす、レジャー空間としての活用を図るなど、交流人口の拡大を目指すこととしている。

※1 後期基本計画で上方修正 1000万人→1200万人

★新たな国づくり計画 出雲未来図 (抜粋)

出雲大社「平成の大遷宮」後の観光対策

60年ぶりに行われる出雲大社「平成の大遷宮」後も引き続き出雲の魅力を広く全国に発信するとともに、神門通りの更なる賑わいの拡大をめざします。出雲大社を核として、市全体の観光スポットへ周遊する取り組みを展開し、再び訪れていただけるような仕掛けづくりや着地型観光プランの開発に取り組みます。

また、スポーツ、田舎体験、医療ツーリズムなど、充実した観光素材を活用し、多様なニーズに対応する商品開発や仕組みづくりに努めます。



出雲大社



出雲日御碕灯台

スポーツ・レジャー空間の活用

日御碕、キララビーチに代表される美しく豊かな海岸線、宍道湖・神西湖周辺、斐伊川・神戸川流域、さらに絶好のビュースポットである立久恵峡など山系の森と水を生かし、市民の憩いの場として、また交流人口の拡大のため、市内各種施設と連携しながら様々なスポーツ・レジャー空間としての活用を図ります。

現在休園状態にある出雲いりすの丘は、日本三美人の湯である湯の川温泉の活性化と連携を含めた民間活力の導入などあらゆる活用の方策を検討します。

計画の更新（令和7年3月）にあたっては、新たな総合振興計画を参照し策定する。

『出雲新話 2030』（R4）

令和4年度に策定した総合振興計画『出雲新話 2030』では、6つの基本方策の1つに「出雲力とともに結ぶ～あらゆる縁を結び交流を促進する～」を掲げ、まちづくりの施策として「期待（来たい）が膨らむ観光のまち出雲」の実現を目指すこととした。

「世界からIZUMOへ」としたインバウンド誘客や、デジタルプロモーションを展開するとともに、「おもてなし」環境の向上を図り、「縁結びの聖地」「神話のふるさと」をはじめ出雲の魅力ある観光資源を組み合わせた周遊滞在型観光につなげていくことに取り組んでいる。さらに広域連携や、日本遺産「日が沈む聖地出雲」の発信にも取り組み、交流人口（※）（8年間）1億人を目指している。

※交流人口：観光入込客数で数値化

★出雲新話 2030（抜粋）



08 期待（来たい）が膨らむ観光のまち出雲



基本方針



SDGs



世界から「IZUMO」へ

IZUMOの魅力を海外へ発信し、IZUMOの認知度向上を図りながらインバウンド誘客につなげます。



インバウンド観光（神門通り）

デジタルプロモーションで出雲旅へいざなう

動画やSNSなどデジタルを活用した戦略的かつ効果的なプロモーションを展開し、出雲の認知度向上を図りながら国内外からの誘客を図ります。

「来て、観て、泊まって」出雲で満足

- 「縁結びの聖地」「神話のふるさと」として広く知られ、出雲大社をはじめ、重要文化財に指定された出雲日御碕灯台やジオパークの海岸線、歴史的建造物である須佐神社、伝統的な街なみが残る木綿街道、美しい夕日や海岸線を見ることができる多伎エリア、日本三美人の湯として知られる湯の川温泉、そして「地域が誇る観光スポット」など、出雲の魅力ある観光資源を効果的に組み合わせた取組を展開し、周遊滞在型観光につなげます。
- 国立公園をはじめとする自然・景観や歴史・文化などを生かした体験プログラムの造成を進めます。



女子旅（須佐神社）

広域観光で楽しむ

中海・宍道湖・大山圏域観光局や山陰インバウンド機構といった広域観光連携組織をはじめ、様々な団体との連携を深め、観光の広域化、多様化への対応を図ります。

日本遺産で魅力を発信

日本遺産「日が沈む聖地出雲」のストーリーや構成文化財を活用し、広く情報発信することで出雲の魅力ある観光地づくり、出雲のブランド力向上につなげます。

「おもてなし」の環境を整える

観光施設の維持、機能向上や、宿泊機能の強化、街なみ環境整備をはじめとする観光客の受入環境の整備を図ります。



日御碕神社



日御碕ビジターセンターでの観光案内

国立公園満喫プロジェクト

『大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020』(H28)

大山・隠岐国立公園満喫プロジェクト地域協議会

日本の国立公園を世界水準の『ナショナルパーク』としてのブランド化を図ることを目標に、「国立公園満喫プロジェクト」を実施し、2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を、1000万人に増やすことを目指すこととされている。この目標達成に向けて、集中的に取り組を実施する8つの国立公園に、大山・隠岐国立公園が選定された。

これらの目標を達成するためのロードマップとして、平成28年度に『大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020』が策定された。

★大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020 抜粋

4.4 プロジェクトの実施（島根半島西部地域）島根半島の北西に位置する大社・日御碕・鷺浦地域は、出雲国風土記（733年に編纂）にも記された古くから由緒ある場所である。日御碕地区の日御碕神社は、国の重要文化財に指定されているとともに、日の本の夜を守る神社と伝えられており、古来から神幸神事（夕日の祭り）が執り行われている。この神代の時代から現代にかけて誰をも魅了する夕日のロケーションは、歴史的な付加価値もあわせて世界に誇れる地域の宝であり、訪日外国人をはじめとする旅行者に感動を与えるスポットとなるよう整備を図る。

さらに、日御碕・鷺浦地域においては、ダイナミックな日本海を舞台として、ダイビング、釣り、シーカヤックなどのアクティビティも楽しめ、日本海で採れる絶品の海の幸を提供する宿泊施設（ホテル、民宿、古民家）もあり、受入環境を整えた世界水準のナショナルパークとして、全世界へ情報発信を図る。

一方、オーバーユース対策の検討なども考慮し、来訪者のごみ対策の徹底、立入エリアの制限、海岸清掃やまちなみの美化、自然保護や環境保全の意識の高いガイドの養成、地元住民や来訪者の意識改善を図るなど、自然保護や環境保全面においても世界に誇れる取組を行う。

『大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2025』(R3)

★大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2025 抜粋

大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2020に基づき、多様な主体により、200を超える多角的な取り組みが行われた。ターゲットとしていた訪日外国人旅行者も着実に増加しつつあったが、これまでの成果や課題を踏まえて取組を発展的に持続させる必要があったことから、令和3年度以降も大山隠岐国立公園満喫プロジェクトを継続することが合意された。

その後、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受けて、観光分野は未曾有の影響を被ることになった。大山隠岐国立公園ステップアッププログラム 2025は、こうした時勢の中作成された。引き続き大山隠岐国立公園独自の魅力を高めるとともに、前身のプログラムとは異なり訪日外国人旅行者だけでなく国内旅行者もターゲットに定めた上で、国内外からの利用者を回復させることを目指す。

『大山隠岐国立公園島根半島地域管理計画書』（H11）

地域の特性を活かした現地管理業務の計画的遂行を期するために、環境庁自然保護局山陰地区国立公園・野生生物事務所により策定された計画であり、以下の事項に重点が置かれている。本計画書では、風致景観の管理に関する事項として、工作物（建築物、道路、電柱・鉄塔・アンテナ類等、港湾・漁港・海岸保全施設等）の新改増築や、木竹の伐採、広告物の設置等について、詳細な取扱方針が記載されている。

★大山隠岐国立公園島根半島地域管理計画書 抜粋

公園計画の基本に基づき、従来からの指導指針等も含めて、行為の種類ごとに取扱方針を整理し、整合性のある風致景観の管理を図るものとする。

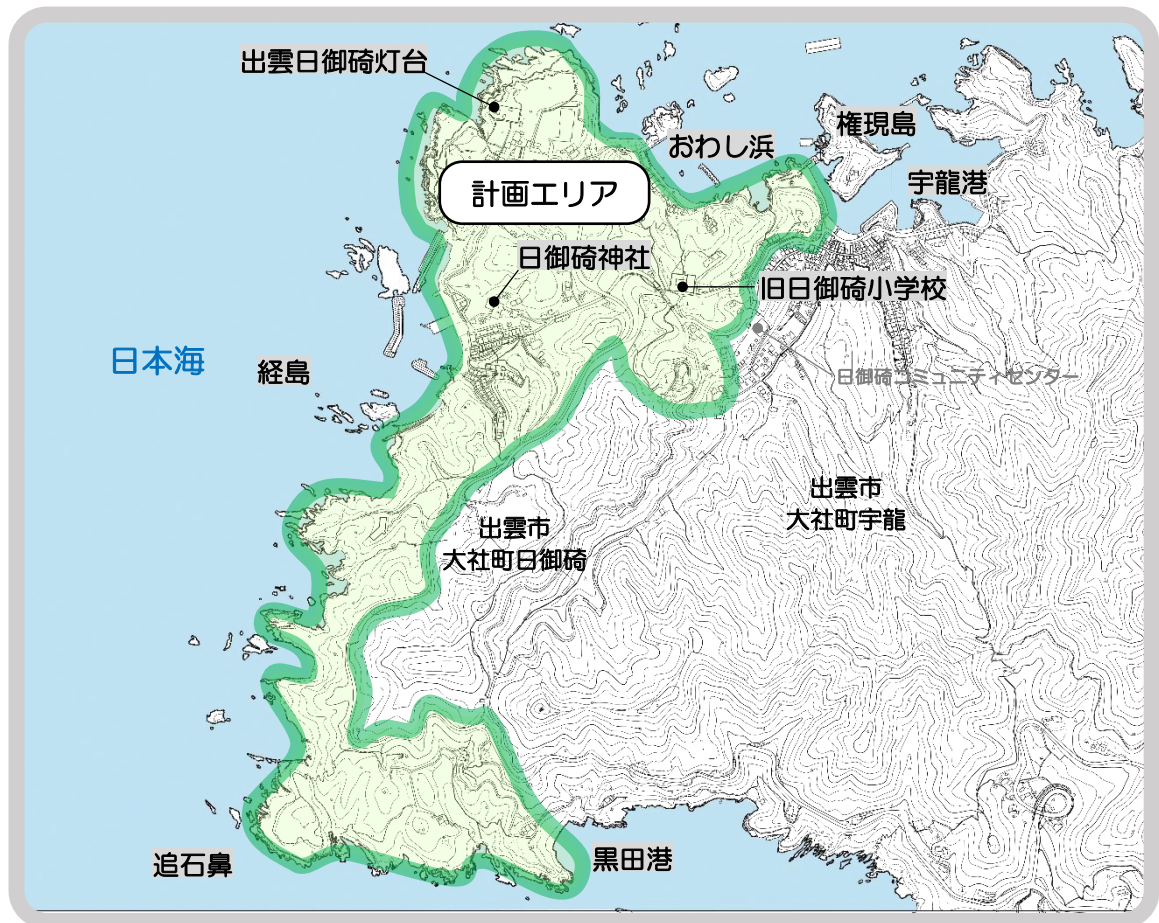
施設の整備並びに管理について、総合的な検討を行い、自然条件に見合った適正な利用の促進を図るものとする。

公園利用者に対する指導体制の整備、普及啓発活動等の充実・強化を図るものとする。

その他、地域の特性に応じて、現地管理のために必要な事項の整理を行うものとする。

3) 計画期間 令和2年度(2020) ~ 令和11年度(2029)

4) 計画エリア



①日御碕集団施設地区

日御碕神社や出雲日御碕灯台などの観光施設・観光コンテンツが数多く、古くから宿泊施設や土産物店が集積している。加えて、国立公園満喫プロジェクト、日本遺産、日本ジオパーク等におけるプロジェクトの取組により、自然景観や文化・歴史をコンテンツとしたガイドツアーや体験プログラムなども実施・計画されているエリア。

②旧日御碕小学校から宇龍港へ繋がる市道ルート西側全域及び東側の一部

日本遺産の構成文化財や関連文化財(宇龍、権現島、和布刈神事など)に加え、海沿いの壮大な自然景観等があり、集客エリア・周遊エリアとして日御碕集団施設地区と一体的な誘客促進を目指して、プログラム開発や拠点施設等の整備を検討している。近年、日御碕小学校の跡地や施設を民間事業者のサテライトオフィスとして活用されている。

③日御碕神社南側から追石鼻南側へ繋がる県道ルート西側全域

県道大社日御碕線の西側は、日御碕神社の遠景スポットや日本海を望む絶景ポイントなどが点在し、①や②への主要なアクセスルートとなっており一体的な景観改善を行うことで、より満足度向上に繋がることが期待されるエリア。現在は視界を遮る枯損木などが国立公園の景観を著しく損ねていることが課題。

上記を踏まえ、本計画では、大山隠岐国立公園島根半島西部地域における主要な利用拠点である【①日御碕集団施設地区】を中心に、【②旧日御碕小学校から宇龍港へ繋がる市道ルート西側全域及び東側の一部】および【③日御碕神社南側から追石鼻南側へ繋がる県道ルート西側全域】を加えたエリアを、日御碕地区まち歩き環境向上基本計画の対象エリアとして設定する。【改訂：2021年3月、2022年3月】

3. 日御碕地区の特徴

日御碕地区には、出雲風土記・古事記・日本書紀にも登場し、朱色の社殿が美しい「日御碕神社」、石積みの灯台としては日本一の高さを誇り、世界の灯台 100 選・日本の灯台 50 選にも選ばれている「出雲日御碕灯台」、毎年数千羽のウミネコが繁殖のために渡ってくる国の天然記念物に指定されている「経島」など、自然、景観、歴史などの観光スポットが数多く、出雲市では出雲大社に次ぐ観光エリアである。

(1) 日御碕地区の観光資源

① 日御碕神社



日御碕神社は朱塗りの権現造りで、日沉宮（祭神：天照大神）と神の宮（祭神：素戔鳴尊）の2社の総称。「日沉宮」は「伊勢大神宮は日の本の昼を守り、出雲の日御碕清江の浜に日沉宮を建て日の本の夜を守らん」との神勅により祀られたことが始まりと言われ、日の本の昼を守る「伊勢神宮」と対の役割を持つ社殿として建てられたと言われている。

② 出雲日御碕灯台



1903（明治 36）年に建立された石造りの灯台で、灯台の高さが 43.65m と日本一の高さを誇る。

創建から 100 年を越えた今もなお、現役で海の安全を守っており、その歴史や文化的な価値の高さから 1998（平成 10）年に「世界歴史的灯台百選」に、2013（平成 25）年には国の登録有形文化財に選ばれている。

③ 経島（ウミネコ繁殖地）



現在の日御碕神社「日沉宮」に天照大神が祀られる以前に鎮座されていたといわれる島。8 月 7 日に「神幸神事（夕日のお祭り）」が行われるときに神職のみが渡ることを許されている。

ウミネコの繁殖地として国の天然記念物に指定されており、毎年 1 月下旬から 7 月中旬までこの島に棲息し、ひなの成長を待ってから飛び立つ。

④ おわし浜



「スサノオの御座（おわし）ました」ところから名のついたと言われる浜辺は、美しい島々を眺めることができる砂利石の浜である。海水の透明度が高く、夏は海水浴客で賑わう海水浴場としても知られている。

⑤ 出雲松島



出雲日御碕灯台から海岸沿いの遊歩道を進むと島が連なった景観を楽しめる。入り江には、大小の島が形よく並び、心洗われる景観を有しており、東北の名所松島にちなみ「出雲松島」と呼ばれている。

⑥ 日本遺産「日が沈む聖地出雲」



平成 29 年に、文化庁が認定する「日本遺産」に、出雲市にある 20 あまりの構成文化財を中心としたストーリー「日が沈む聖地出雲」が認定された。地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外への夕日にまつわる自然・歴史を戦略的に発信することにより、地域の活性化を図っていく。

令和 5 年には認定継続された。

ストーリー抜粋

島根半島西端の海岸線は、出雲神話の舞台となった「稲佐の浜」と「日御碕」の名で親しまれ、そこから見る夕日は絶景です。しかしこの海岸線に、夕日にちなんだお社である「天日隅宮」（出雲大社）と「日沉宮」（日御碕神社）が祀られていることはあまり知られていません。古来、大和の北西にある出雲は、日が沈む聖地として認識されていました。とりわけ、出雲の人々は夕日を神聖視して、畏敬の念を抱いていたと考えられます。

海に沈むこの地の美しい夕日は、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史を語り継いでいます。

⑦ 島根半島・宍道湖中海ジオパーク

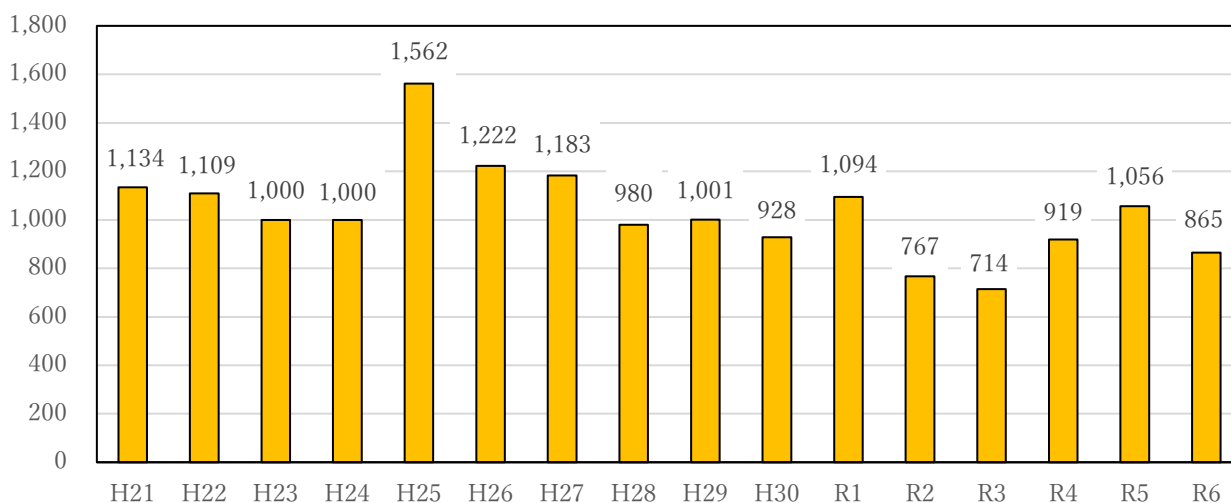


島根半島は、山塊がほぼ東西 67km にわたって雁行状に連なっており、その南側には出雲平野・宍道湖・松江平野・中海そして弓ヶ浜半島へと連なる低地帯が広がっている。宍道湖・中海は連結潟湖として、国内最大の汽水湖を形成している。この地域は、新第三紀の日本列島と日本海の形成に関わった地殻変動の中で日本海南西端に位置する地域。日御碕にはおよそ 1600 万年前

に貫入した流紋岩の冷却収縮によってできた柱状節理が発達している。平成 29 年 12 月に、日御碕エリアを含んだ島根半島・宍道湖中海エリアが日本ジオパークに認定された。

(2) 観光入込客数（日御碕）

観光入込客延べ数
(千人)



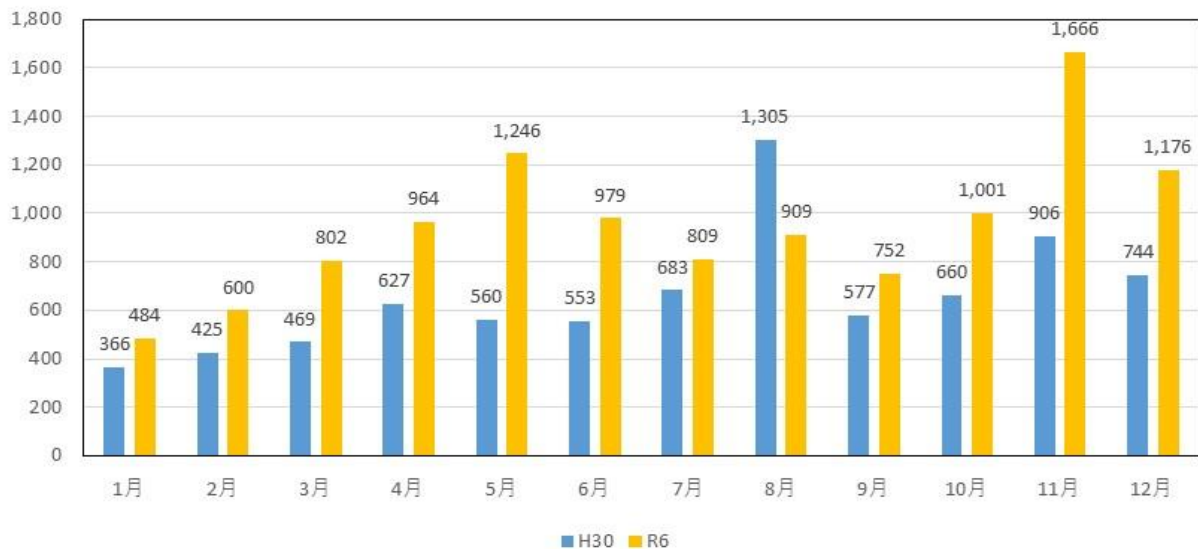
出典：島根県ホームページ「島根県観光動態調査」データ編・観光地点別観光入込客延べ数（日御碕）

日御碕エリアへの観光入込客数の近年の推移をみると、H25 年は出雲大社の大遷宮本殿遷座祭が執り行われ、全国からの参拝客が、人気のある日御碕神社にも周遊し、156 万人の入込となった。これをピークに漸減傾向にあり、H28 年、H30 年には 100 万人を割り込んだ。改元に沸いたR元年は約 110 万人だったが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた R2 年、R3 年は、70 万人台に落ち込んだ。R5 年に 106 万人まで回復したが、R6 年は豪雨により唯一の連絡道路が崩落し、一般車両は7月から9月まで、大型車両は 12 月末まで通行止めとなり、86 万人の入込に留まった。

今後の日御碕エリアへの入込客数増加に向けては、日御碕神社への参拝に加えて、魅力的な体験コンテンツなどをさらに磨き上げ、「聖地にある国立公園」のコンセプトのもと、ゆっくりとに加えアクティブに滞在できる環境づくりが不可欠である。

(3) 外国人宿泊者数（出雲市全体）

外国人宿泊者数
(人)



* 平成 30 年・令和 6 年の外国人宿泊者数（出雲市）

出典：出雲市観光動態調査（出雲市）

出雲市の外国人宿泊者数を計画策定時と比較すると、H30 年の 7,875 人から R6 年には 11,388 人まで増加した。いずれも 1 月から 3 月の冬期は宿泊者数が少ないため、国内観光客に加え、この時期に観光の動きが活発になる東アジアの外国人観光客をはじめ、当地の魅力をゆっくりと楽しみ、国内滞在期間が長い欧米の観光客の来訪、宿泊を促進していきたい。

このため、魅力の高い観光地の環境づくりを行い、全国的な外国人観光客数増加の波に乗る必要がある。

4. 日御碕エリアの課題・問題点

平成 30 年度から、満喫プログラムステップアッププログラムを実施していく中、体験プログラムの造成や、景観形成に、地元・行政が一体となって取り組み、滞在時間の充実を図るとともに、まち歩き環境の向上に取り組んだ。この間、コロナ禍の影響から民間投資が慎重になり、建築物の景観形成等について未実施箇所が残っている。

日御碕地域の現況は以下のとおりとなっている。

① 建築物景観の不統一

エリア内の建築物は、統一したコンセプトの下でのまちづくりや景観形成が進んだが、一部に統一感がない店舗等が残っている。観光地としての魅力を向上させるためには、引き続き事業者負担が可能な範囲での統一した景観形成を行うことが望ましい。



一部が整備された街並み

景観整備事例 ※令和 2 年度から令和 6 年度までに 19 件を整備



② 店舗や宿泊施設の老朽化

店舗や宿泊施設も老朽化した施設が多く、今後多くのインバウンド観光客を受け入れ日御碕の魅力を満喫していただくためには、外部景観の改修、洋式トイレ等への再整備を個々の事業者が行うとともに、新たな事業者の出店を促す施策展開が必要となる。



③ 樹木による景観の阻害

数多くのビューポイントを有し、とりわけ夕日の風景が日本遺産となった当該地域では、様々な箇所からの眺望環境を確保する必要がある。特に、景観を阻害する樹木の伐採は効果的であり、可能な箇所から進めていく必要がある。



④ インバウンド観光客への対策

今後の増加を見込むインバウンド観光客に対する魅力向上施策として、トイレの洋式化、Wi-Fi環境の構築、各種案内表示については、色彩の統一化及び多言語化等を図る必要がある。



⑤ 観光案内サインの不足

地区内に点在する魅力ある観光スポットを結び、総合的な観光の満足度を向上させるために適切な観光案内サインの再整備が必要となる。サイン標記は上述のインバウンド対策に向けて多言語化が不可欠となる。



⑥ 夜間照明の不足

「日が沈む聖地出雲」が日本遺産と認定されているため、夕日を眺める観光客の増加が見込まれる。そのため、日没後の安全性確保と魅力向上に向けた夜間照明の整備も必要となる。



5. 課題解決に向けた具体的コンセプトと目標値

具体的コンセプト

具体的課題

- ① 建築物景観の不統一
- ② 店舗や宿泊施設の老朽化
- ③ 樹木による景観の阻害
- ④ インバウンド観光客への対策
- ⑤ 観光案内サインの色彩の統一化及び整備
- ⑥ 夜間照明の不足
- ⑦ 閑散期のシーズンの対策

課題解決に向けた取組方針

- ・ 国立公園の景観を楽しめるまちなみづくり
- ・ 文化財や日本遺産等の歴史的観光コンテンツとの調和が図られている空間づくり
- ・ 写真や動画などで撮りたくなる空間づくり
- ・ 落ち着いた色彩で過剰な演出を控えたまちなみづくり
- ・ 老朽化した店舗や廃屋、景観を阻害している樹木などのない美しいまちなみづくり
- ・ 外国人観光客にも分かりやすい・行きやすい環境づくり
- ・ 時間、シーズンに関係なく楽しめるエリアづくり

自然・歴史を活かしたまち歩き環境の向上による快適な空間の創出

目標値

まち歩き環境の向上による来訪者数の増加を具体的成果とするため、日御碕エリアのまち歩き情報の集積地であり、来訪者数の変化や実態を把握しやすい『日御碕ビジターセンターの入館者数の増加』を具体的目標値とする。令和6年を基準とし、出雲市観光基本計画に定めた入込客延べ数の伸びに準じた入館者数を目標とする。

指標	令和元年	令和6年	令和11年
日御碕ビジターセンター入館者数	24,502人	21,357人	➡ 36,612人

※令和2年から令和5年はコロナ禍の影響で入館者数が減

6. 課題解決に向けた取組内容

(1) 民間店舗や宿泊施設の景観形成

まちなみの景観形成に向けて、建築物等の修景に配慮した整備を実施する。

大山隠岐国立公園管理計画書

2 風致景観の管理に関する事項 (1) 許可、届出等取扱要領から抜粋

工作物

■ 建築物

① 基本方針

建築物の設置に当たっては、主要利用拠点、道路および海上の遊覧船からの眺望に配慮し、位置規模、構造、デザイン、色彩等が風致景観に支障を及ぼすことがないように配慮するものとする。

② デザイン・色彩

i) 屋根

- ・ 屋根の形状は、軒の出のある切妻、寄棟とする。
- ・ 屋根の勾配は10分の3以上10分の5以下とする。

ii) 色彩

- ・ 屋根の色彩は焦げ茶色または黒色とするものとする。ただし、屋根瓦を用いる場合は、灰～黒色または茶系色とし、自然材料葺き（銅板葺きを含む）を用いる場合は、素地色も可とする。
- ・ 外壁の色彩は、茶系色、灰色とするものとする。ただし、自然材料（和風建築の漆喰を含む）を用いる場合は、素地色も可とするものとする。

③ 修景緑化

- ・ 主要利用拠点または主として公園利用に供される道路から望見される位置にある建築物については、当該地域に生育する植物と同種の植物による修景のための植栽を行うものとする。

■ その他の 工作物

① 基本方針

- ・ その他の工作物の設置に関しては、位置、規模、構造、色彩等が風致景観に支障を及ぼすことがないように配慮するものとする。
- ・ 自動販売機を設置する場合は、建築物の庇の下に設置するか、自然材料により外側を囲う等して風致景観への影響を軽減するものとする。

広告物

■ 指導標、誘導標および案内板

① 基本方針

- ・ 乱立は避け、同一地域のものは整理するものとする。
- ・ デザインは簡素なものとし、統一を図るものとする。

② 設置場所

- ・ 眺望の妨げにならない場所であることとする。

③ 材料・色彩等

- ・ 材料はできるだけ木材、石材等自然素材を使用するものとする。
- ・ 色彩は、支柱および文字盤は焦げ茶色、文字は黒色または白色とする。
- ・ 案内図には上記以外の色彩の使用を認めるものとするが、必要最小限の使用にとどめるものとする。

■ 事業用広告物

① 基本方針

- ・ 店舗、事務所、営業所等の敷地内において、設置目的に照らして必要と認められるものに限るものとする。

② 材料・色彩等

- ・ 材料はできるだけ木材、石材等自然素材を使用するものとする。
- ・ 色彩は、支柱および文字盤は焦げ茶色、文字は黒色または白色とする。
- ・ 案内図には上記以外の色彩の使用を認めるものとするが、必要最小限の使用にとどめるものとする。

(2) 地区内の景観向上・環境向上

① 廃屋施設の撤去や再整備

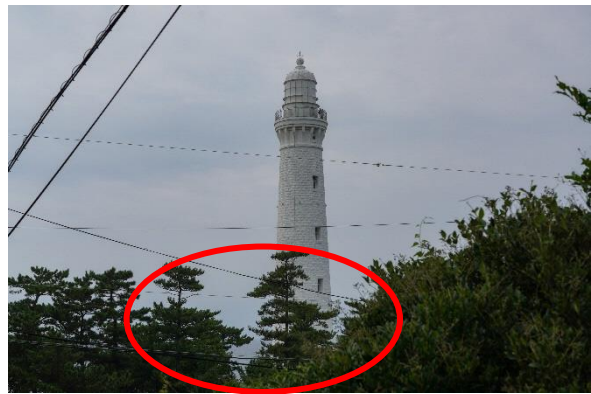
新たな民間事業者の導入予定箇所に対して、支障となる廃屋施設の撤去を行う。民間施設においては事業者との話し合いや、空き家情報を取りまとめ、撤去に向けた働きかけにつなげる。



地区内のイメージ

② 樹木や枯損木の伐採処分

眺望を阻害する枯損木を伐採して、魅力ある景観を楽しめる空間づくりを行う。



(3) インバウンド対策のための施設整備等

① 洋式トイレ整備

主要な利用拠点や土産物店舗、宿泊施設の洋式トイレ化を実施する。



地区内の未改修のトイレ



改修済のトイレ

② Wi-Fi 環境整備

地区内におけるフリーWi-Fi 環境を構築してインバウンド観光客の利便性を向上させる。



(4) 観光地としての魅力向上策の実施

① 観光案内サイン整備

地区内の観光スポットを結ぶ多言語化した観光案内サインを整備する。



② 夜間照明の整備

日没後の安全性確保と夜間の魅力向上に向けた照明整備を実施する。



日御碕地区まち歩き環境向上基本計画

策 定 : 2020 年 2 月
改 訂 : 2021 年 3 月
2022 年 3 月
2025 年 3 月